

北海道大学病院 地域医療連携福祉センター ニュースレター

第2号



本年もよろしくお願ひ致します



北海道大学病院 地域医療連携福祉センター
センター長 浅香正博

2005年4月より北海道大学病院に地域医療連携部が設立されました。以来、地域医療機関との連携の窓口となれるよう努力をして参りました。おかげで当初は月30-50件位であった地域医療連携部を通しての患者紹介が最近ではコンスタントに100件を超えるようになってきました。

従来より北大病院の敷居は高いので紹介しにくいということがいわれておりました。確かに大学病院はいくつもの独立した診療科の集合体であり、その診療科の関連している病院や医師でないと紹介しにくい風潮はあったと思われます。しかし、今は違います。各診療科に連絡しなくても地域医療連携部に連絡していただくと診療の予約は簡単に取れるようになってきました。地域医療連携部の仕事はこのような前方支援のみではなく、北大病院を退院した後の病院の逆紹介や在宅医療への支援なども行っております。昨年、医療福祉相談室と合体し、地域医療連携福祉センターと名前を変え、さらに地域連携の輪を広げる努力を行っていきたく思っております。ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

患者さんの予約から受診まで

受付時間:8時30分~17時15分
電話番号:011-706-6037
FAX番号:011-706-7963

1 FAXでお申し込み下さい

- *別紙の外来診療案内・専門外来一覧をご参照下さい。
- ① 診療情報提供書
 - ② 予約申し込み書(医科・歯科・検査用)をFAXで送信して下さい。

2 受診日時・時間を紹介元へFAXにて返信

*折り返し、患者予約票をFAXで返信します。

3 患者さんに予約票と診療情報提供書をお渡し下さい

外来受診からご帰宅まで

1 患者さんは予約票・診療情報提供書・保険証をご持参

*カルテ・診察券は事前に準備しておきます。

2 診察

3 会計を終了後帰宅

*当院では院外処方にご協力をいただいております。
院外処方箋相談コーナーの無料FAXで、お近くの薬局で受け取れます。

4 紹介元へお返事を返信

移転性消化器癌への挑戦

—世界レベルの薬物治療を目指す—

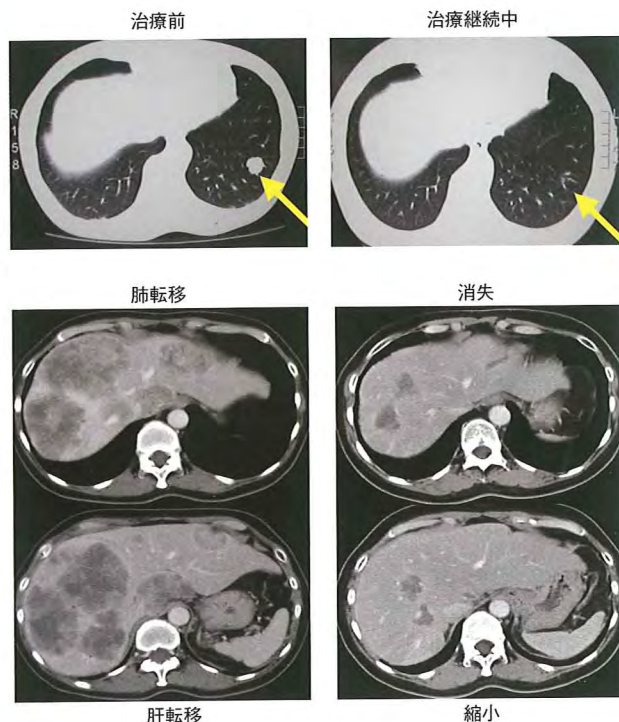
地域医療連携福祉センター 副センター長
第3内科 消化器癌治療グループ 小松 嘉人

第3内科では、主に消化器疾患と血液疾患の診療・研究を行っています。今回は我々消化器癌治療グループについて御紹介します。現代人の三人に一人が癌で亡くなり、その6割が消化器癌であり、その半数以上の手術不能再発消化管癌を対象に薬物による治療・臨床研究を進めるのが我がグループです。現在では手術不能癌でも有効な薬物の登場により、腫瘍内科医から最新の標準的治療を受ければ延命ができることが各種臨床試験で証明されています。当グループでは肝細胞癌を除く消化器癌での最新の標準的治療が実施可能です。標準的治療とは、現在最も患者さんに有益な治療の事であり、最新の医学本に載るような治療の事を言います。本稿では手術不能進行大腸癌治療の紹介をします。ここ数年の進歩は目覚ましく、世界ではイリノテカン (IRI) を使ったFOLFIRI療法、オキサリプラチンを使ったFOLFOX療法を標準的治療として行うことで、最長の生存期間が得られることがわかっています。しかし日本では未だそれらの治療ができない施設もありますが、当グループでは殆ど外来ベースでの実施が可能です。それ以外にも新しい標準的治療を開発するための臨床試験という研究的治療を沢山実施しています。中でも IRI とS-1という経口抗癌剤を併用した IRIS (アイリス) 療法は当グループで世界に先駆けて開発した治療法です。奏効率や無増悪生存期間は世界でもトップクラスの成績をおさめており、国内外の学会でのその結果が報告されています。またこの新治療を新しい世界の標準治療とするための二つの臨床試験IFOX study、FIRIS study はいずれも現在受けることが可能です。

さらに新しい治療として、未だ本邦では未承認の分子標的治療薬を用いた治験も実施しています。最近では上述のFOLFOX、FOLFIRI療法の何れにも効果が無くなった患者さんに対するアービタックスの治験 (終了) にも、一次治療としてのアバスチンを使ったFOLFOX4+アバスチン療法、経口抗ガン剤でこれも国内未承認の Xeloda を用いた XELOX+アバスチン療法など、本邦では数施設しか参加できない治験にも参加が可能となっています。

紙面が少なく、詳細な御紹介ができないのが残念ですが、手術不能大腸癌患者さんがおられましたら第3内科消化器癌治療グループまで御相談下さい。

IRIS 療法の著効例



北大外来通院治療センター

在宅抗癌剤療法のための持続ポンプ療法

現在第3内科で行われている進行大腸癌に対する治験・臨床試験

【治験】

- ①イリノテカン・オキサリプラチン耐性進行大腸癌に対する新規分子標的薬セツキシマブ+イリノテカン併用療法の臨床治験 (終了)
- ②未治療手術不能進行大腸癌に対する新規分子標的薬アバスチンとFOLFOX4併用療法の臨床治験 (終了)
- ③既治療手術不能進行大腸癌に対する新規分子標的薬アバスチンとFOLFOX4併用療法の臨床治験 (実施中)
- ④未治療手術不能進行大腸癌に対する新規分子標的薬アバスチンと新規多剤併用療法XELOX との併用臨床治験 (終了)
- ⑤ステージIII 大腸癌術後補助化学療法としてのXELOX+アバスチン、FOLFOX4+アバスチン、FOLFOX4の比較試験 (実施中)
- ⑥既治療手術不能進行大腸癌に対するIRIS 療法とFOLFIRI 療法の第3相比較試験 (FIRIS) (実施中)

【臨床試験】

- ①未治療手術不能進行大腸癌に対するIRIS 療法とmFOLFOX6療法の第3相比較試験 (IFOX) (実施中)
- ②ステージIII 大腸癌術後補助化学療法としてのLV+UFT、LV+UFT → UFT、LV+UFT+PSK の第3相比較試験 (実施中)

ていねい、正確な診断で、多くの治療実績

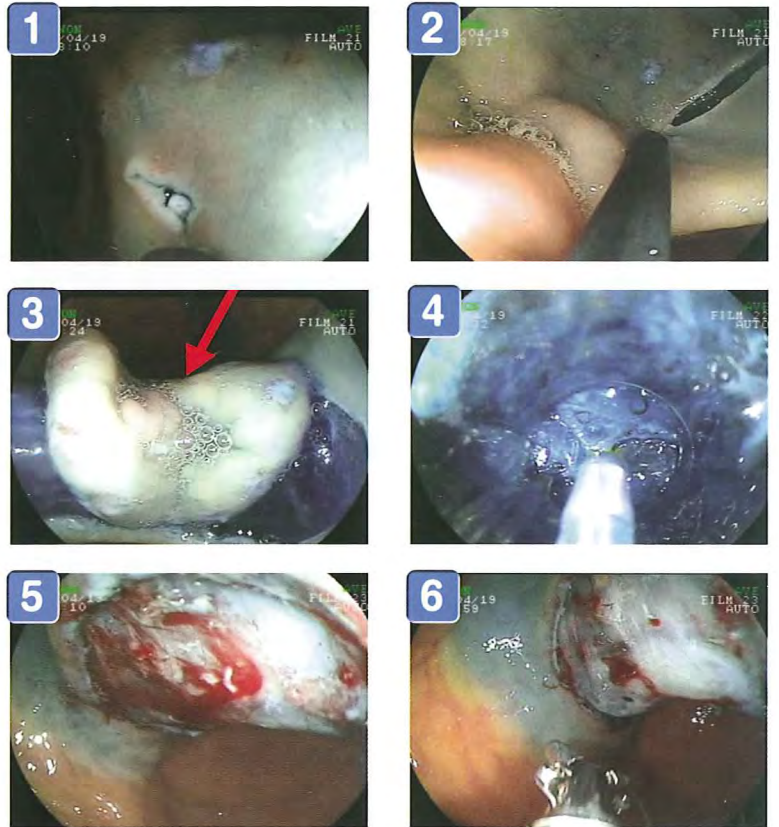
当グループは浅香正博部長以下、スタッフ2名、客員臨床助手1名、医員2名、大学院生7名で構成されており、内視鏡を用いた消化管の診断、治療を専門に行う部署です。診断は、一般的な通常・色素内視鏡、超音波内視鏡はもちろんのこと、当部門が得意とする拡大内視鏡（胃炎の診断、早期胃癌の側方進展診断、大腸癌の pit pattern 診断、食道炎、食道癌の診断など）、ダブルバルーン式小腸内視鏡等の最先端の検査も行っております。患者さんにもっとも適切な治療が受けもらえるように、1例1例丁寧に、正確な診断を行うことをモットーとして、日々の検査を行っております。

また、内視鏡的治療・処置に関しては、食道腫瘍切除（EMR／内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）、胃腫瘍切除（ESD）、大腸腫瘍切除（ polypectomy／内視鏡的粘膜切除術（EMR）／ESD）を主とし、消化管出血止血術、内視鏡的胃瘻造設術、難治性逆流性食道炎に対する内視鏡的噴門形成術などを行っております。当部門では、特に消化管の早期癌の切除に力を入れておりますが、食道腫瘍の切除は現在までに約140例、胃の ESD も約200例に及び、いずれも北海道内で屈指の症例数です。早期胃癌は、現在内視鏡治療の適応拡大がなされようとしており、厚生省の研究班に当部門も参加する予定です（北海道では2施設のみです）。今後も、北海道の内視鏡的腫瘍切除に関して top class の施設として、更なる症例数の蓄積を行ってまいります。

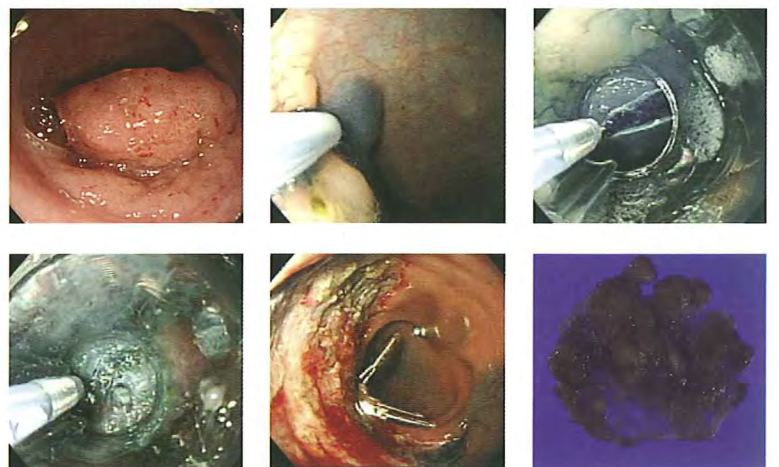
（記 中川 学）

内視鏡的粘膜下層剥離術
（Endoscopic Submucosal Dissection; ESD）

早期胃癌症例



大腸巨大腺腫症例



開腹手術を必要とせず、確実に治療適応の早期消化管癌等の切除が可能となりました。

a	b	c
d	e	f
g		

- a 腫瘍全体像
- b 病変周囲への局注
- c 周辺切開
- d 粘膜下層剥離
- e 切除直後
- f 切除標本
- g 術後8ヶ月



病院のご案内



JR利用

JR札幌駅下車、札幌駅北口より徒歩15分

地下鉄利用

地下鉄南北線にて北12条駅下車、徒歩6分
地下鉄東豊線にて北13条東駅下車、徒歩15分

バス利用

中央バス 01 03 04 屯田線にて
北大病院前下車、徒歩3分

タクシー

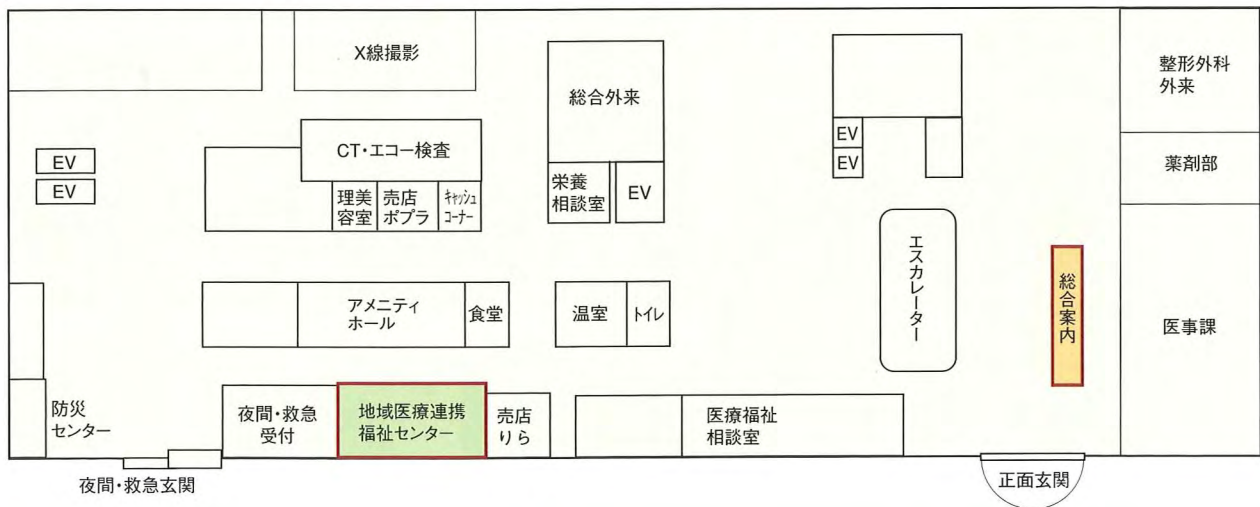
JR札幌駅北口より約700円

自家用車

札幌自動車道
札幌北インターチェンジより
西5丁目通りを南に15分

病院敷地内・全面禁煙

院内地図…地域医療連携福祉センターと総合案内のご案内



編集後記

「北海道日本ハムファイターズ・日本シリーズ優勝」の余韻を残しながら幕を開けた2007年、皆様はいかがお過ごしでしょうか？心機一転のこの時季、初詣に行かれた方も年末年始を忙しく過ごされた方も、猪の勢いのごとく目標に向かって突き進める1年となるようはりきって参りましょう！今年も、どうぞ宜しくお願い致します。

発行 ●平成19年1月

北海道大学病院 地域医療連携福祉センター

〒060-8648 札幌市北区北14条西5丁目

電話：011-706-6037・7040 (直通)

FAX：011-706-7963 (直通)

<http://www.huhp.hokudai.ac.jp>